令和６年３月３１日

令和５年度　　学校経営報告

東京都立上水高等学校長
鈴木　信也

１　今年度の取組目標と方策

【　「やり抜く力」の育成と生徒が主語になる教育活動の実践　】

（1）教育活動の目標と方策

①　学習指導（「考えさせる授業」の定着）

ア　「やり抜く力」の育成　学校評価アンケート（以下アンケートという）生徒 76.0％肯定評価

イ　「生徒が考える」授業の推進。アンケート生徒 77.6%　教員 83.9％肯定評価

ウ　授業外学習時間の増加を図るため、各教科が工夫した学習指導を推進した。

エ　学習状況と成績の推移を分析して、生徒の課題解決意欲を引き出す授業を推進した。

オ　教科の枠を超えた相互授業見学若手・中堅は年 10 回以上実施し、授業力の一層の向上を図った。

カ　教職員のデジタル技術の活用力を高め、オンライン学習活用の着実な定着を図った。

キ　高大接続改革の具体的推進には新たな指定校獲得について前進はなかった。

（自己評価）　今年度から掲げた「やり抜く力」の育成については、教員が意図的にキーワードとして教育活動に反映させ、全校集会でこの言葉を取りあげ、校内の生徒昇降口に掲示したりした結果、肯定的評価が生徒 76%、保護者 81%が身についたとの評価を受けた。「考えさせる授業」の推進でも、生徒 78%が肯定的である。今年度新たに掲げたこれら２つの大きな取り組みが、学校満足度で生徒 86.8%、保護者 92,4%という高評価を受ける要因の一つとなった。今後もさらに推進し、浸透させることが課題である。

②　進路指導（「やり抜く力」の意識づけ）

ア　創造的な自分の未来を「自分が決める」という意識改革を図った。

イ　「やり抜く力」を育てるため、将来を見通した視野と自律心を育みながら、希望進路実現に果敢に挑戦する意欲の向上を図った。

ウ　教科会において模試等の結果に基づく分析会を実施し、教科として対応策を検討させた。

エ　進路部が主導して、民間活力を活用した受験指導を推進させた。

（自己評価）　進路指導においては、挑戦する姿勢を各年次で向上させたが、3 年次には進路実現を応援するため、進路・教務・年次が連携して、長期休業中の特別講座を昨年の２７から４２講座と増やし受験生を支えた。数値的には、例えば GMARCH 合格者数２５（昨年度１３）に現れたような飛躍的な結果を残した。今後も、希望進路実現のために、生徒一人ひとりと十分な面談を実施した上で、果敢に挑戦させていく。そのために、細やかな進路情報の提供と模試等の結果分析をより推進させることが課題である。

③　生活指導・安全指導（規律ある学校生活の定着）

ア　生徒が自ら誇りをもって、主体的に本校の生活規律を守り改善する態度を育成してきた。

イ　いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むため、学校いじめ防止対策委員会機能や学校カウンセリング機能を充実させ、学校全体で情報共有し、いじめ総合対策に基づいた対応を推進した。

ウ　校内研修を通して教職員同士が体罰に対して相互に看過しない体制づくりを推進した。

エ　本校ＳＮＳルールを生徒会が中心に検討・改善し、生徒へ周知していく環境を図ってきた。

オ　自転車安全運転指導を毎学期実施し、ヘルメット着用等組織的な安全指導の広がりを図った。

（自己評価）　社会のルール・マナーや本校の生活規律を守り、安心・安全に過ごすことで満足のいく高校生活を実感させるために上記の項目を重点的に指導した。結果、学校満足度で生徒は 86.8%、保護者 92.4%

のアンケート回答であった。いじめの未然防止を含めた生徒情報の共有の場を関係分掌・年次で連携して年間16回の委員会を開催し、組織として生徒一人ひとりに寄り添う体制が確立できた。今後は、自転車登校生徒（全校生徒の40%）に対してヘルメット着用率100%にすることが課題である。

④　特別活動・部活動（「やり抜く力」の実践的育成の場）

ア　各行事は、感染予防策と時間管理等を徹底した上で、「生徒が打ち込む」場としての工夫を図った。

イ　事前指導を徹底し、各行事の実行委員が自らの判断で動けるような自律的な行動力を促した。

ウ　体罰や不適切な言動のない指導を前提に、「生徒が打ち込む」部活動づくりを教員に指示した。

エ　「Sport-Science Promotion Club」の指定を受け、運動部・文化部ともに相乗作用として部活動の活性化を推進した。

オ　TOKYO GLOBAL GATEWAY事業を活用したグローバル人材育成を実践した。

（自己評価）　特別活動・部活動ともに生徒が主語になる活発な活動が展開できた。「生徒が打ち込む場」と定義したことで、教員の意図的な方向性が確立し、部活動満足度では生徒93.9%、保護者92.1%と高評価を受けた。特別活動満足度でも生徒88.8%、保護者91.7%であった。結果として生徒や保護者の期待に応える運営ができた。今年度は、全国大会進出が放送部・文芸部・写真部、関東大会等進出が陸上部や卓球部など、すべての部活動が相乗効果をもって良い成績をあげた。TOKYO GLOBAL GATEWAY事業は国際理解教育につながった。今後は、夢を目標に変える生徒の意識改革の推進であり、教員がいかに考える力を生徒に身に付かせるかの工夫である。

⑤　心身の健康づくり（健康生活への組織的対応の推進）

ア　内外に相談業務の見える化を推進した。

イ　教員の受容的態度を基本に日常的に生徒の状況を把握し、全教員が必要な情報を共有するとともに、各学期初めには生徒の状況確認を確実に行い、心身の健康づくりと早期ケアを意識させた。

ウ　配置されているスクールカウンセラーを活用した校内研修等を通じて、学校の相談体制・教員のカウンセリングマインドの向上を推進した。

エ　特別な支援が必要な生徒への共通理解と組織的な対応を推進するため、特別支援コーディネーターを中心にして特別支援教育を推進し、個別案件に丁寧に対応させた。

オ「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づいて体力向上を図り、心身の健康づくりを推進した。

カ　自他の生命の大切さを実感させる取り組みやＳＯＳの出し方に関する教育を推進するため、組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の悩みに対応するとともにいじめ撲滅を推進した。

（自己評価）　保健だよりのような発信ができなかったことは課題であるが、関係分掌や年次担当者による特別支援委員会が年16回と定期的に開催したことは、全教員のスムーズな情報共有に繋がり、心身の健康づくりを大きく支えた。スクールカウンセラー（SC）の活用については、教員に促されてSCと面談するという実態から、生徒自らが動き出して面談予約をとるというSCとの距離感を縮める工夫も課題である。教員のカウンセリングマインド向上研修の実施は、生徒のSOSキャッチに今後も生かしていく上で効果的であり、今後も推進していく。

⑥　募集広報活動（情報発信・提供の強化と地域連携）

ア　ホームページの随時更新により、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やその保護者、地域の方々の本校に対する興味・関心につなげた。

イ　個性ある単位制普通科校として、その取り組みや成果の「見える化」を推進した。

ウ　近隣中学校と連携を図り、中学校教員や中学生保護者の本校理解を推進した。

エ　学校説明会や学校見学会等において本校理解をより推進するため、都立高校PR事業に沿い学校見学会開催を図る等、期待に応える本校をアピールした。

（自己評価）　教育活動のタイムリーな情報発信のため、年間320回を超えるホームページの更新を行い、本校進学希望の中学生やその保護者の皆さんに興味・関心をもってもらえた。中学校との連携では、部

活動を中心に年間35回の交流を図った。その他、中学校や塾からの招待にはすべて応じ、本校の様子などを話した。さらに、地域に根ざす学校として、校門横の掲示板では本校生徒の姿を前面に出し、各行事や部活動の様子を写真で紹介した。結果として、推薦入試倍率2.9倍、一般入試倍率1.40倍という数値目標以上の結果を得た。今後も、期待に応える学校づくりの情報発信を継続していく。

⑦　学校経営・学校運営（連携と育成、体制の確立）

ア　西部学校経営支援センター支所との連携を密にし、職務の効率化を図り学校経営の基盤を強化した。

イ　OJTを活用して各職層の人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制を推進した。

ウ　生徒や保護者、地域住民からのアンケートに基づいた「期待に応える学校づくり」を推進した。

エ　管理職が率先して「ライフ・ワーク・バランス」を示し、計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、全教職員の働き方改革プランを推進した。

（自己評価）　期待に応える学校づくり推進として、西部学校経営支援センター支所と連携しつつ若手・中堅教員の人材育成を図った結果、活気ある校内体制の構築が出来てきている。そこにベテラン教員からの指導・助言を含めたOJTをさらに推進して、より組織的な体制を構築していくことが課題である。ライフ・ワーク・バランスについては、意欲的な部活動指導との関係性があり、今後も部活指導ガイドラインの順守を含め指導・助言していく。

⑧　個性ある単位制普通科校として（やり抜く力の発揮）

ア　国際理解教育の一環としてイングリッシュキャンプやスピーチコンテスト、進路探索研修旅行等各種行事や資格・検定の獲得に向けた取組を通じて、国際的感性やコミュニケーション能力を育成した。

イ　「表現」（学校設定科目）を通して、その内容の充実を図りながら、自分自身が打ち込んだ選択科目について自信をもって実践していく自己表現力を育成した。

ウ　ブリッジ（総合的な探究の時間）により３年間を見据えた進路指導を実践し、生徒一人ひとり「正解」もしくは「納得解」の中で希望進路実現を図っていく能力や態度を育成した。

（自己評価）　「やり抜く力」を発揮する重要な上記項目すべてで、学校全体が組織的な取り組みができた。生徒も「今後の意欲につながった」と、学校が期待する能力を身につけるとともに、やり抜くための態度や姿勢が身に付いてきている。今後は、授業・部活動・学校行事等で意欲的に取り組む仕掛けを工夫するとともに、「正解」と同様に「納得解」の存在を強く意識させていく。

（２）　重点目標と方策

①　「やり抜く力」の育成　生徒一人ひとりに、困難にあってもくじけない勇気を育成した。

②　「考えさせる授業」の定着　全教員がその観点で相互授業観察を実施した。

③　教職員のデジタル技術の活用力向上　特にオンライン活用を推進した。

④　授業外学習時間の増加　各教科が計画的に推進した。勉強部の効果的な活用を推進した。

⑤　読書活動の推進　授業やHR等も含めた教育活動全体で図書館の意図的活用を促した。

（自己評価）　生徒の心の中に「やり抜く力」が定着しつつある。卒業生の高校生活での振り返りでは、「やり抜いた」「自分自身と向き合い続けた」「最後まであきらめない心が身に付いた」等、今後の社会に必要な能力や態度が育成できた。と同時にこのことは単位制高校の特色として、本校が目指し続ける目標である。この力を支えるのが「考える力」であり、考える根拠を見出す一つの効果的な実践が「読書」であるので、この取り組み２年目となる来年度も、上記重点目標のさらなる推進を図ることで、期待に応える学校づくりにつなげていく。一方で、「考えさせる授業」の定着は大きな課題であり、生徒の「今後の意欲につながった」という言葉を大切に、教育活動を推進していく。

令和５年度の数値目標と昨年度の実績

数値目標	令和５年度　数値目標	令和５年度　実績
①　進路決定率	９５％	９２．５％
②　大学入学共通テスト受験者数	１２０名 （3年次全生徒の６４％）	１１９名
③　特色ある大学等合格者数 ア　国公立・早慶上理GMARCH合格者 イ　医療・看護系大学等合格者	ア　１８名 イ　全員合格	ア　２９名 イ　希望者全員合格（18名）
④　資格取得 ア　英語検定準２級以上 イ　パソコン検定タイピングレベルＡ ウ　漢字検定準２級以上	ア　９０名 イ　１４０名 ウ　１５名	ア　１８３名 イ　１６１名 ウ　６名
⑤　部活動加入率	９６％	９２．４％
⑥　部活動　好成績 都ベスト１６、関東・全国大会等	７部	８部
⑦　図書館貸出冊数	３０００冊	２７１０冊
⑧　異校種（小中学校等）との連携	新規目標	３５回
⑨　学校説明会等参加人数 （中学生・保護者合計）	２０００名	２１００名
⑩　入学者選抜応募倍率 ア　推薦入学 イ　学力検査	ア　３．０倍 イ　１．３５倍	ア　２．９倍 イ　１．４０倍
⑪　生徒の授業満足度 （考えさせる授業の実践として）	新規目標 （先生は丁寧に答えてくれる）	８９．５％
⑫　学校満足度（肯定的回答） ア　生徒 イ　保護者	ア　８８．９％ イ　８７．９％	ア　８６．８％ イ　９２．４％